

東日本大震災による災害廃棄物の現況視察に関する意見

Q1：被災地へ向かう道中、車窓から被災現場(主に釜石市周辺状況)をご覧いただいて感じたこと

- ・ 被災地の土台しか残されていない状況や、防波堤が破壊されたままとなっている風景に胸が痛くなる。
- ・ 震災前を知らないため、殺風景な所という印象でいたが、不自然に曲がったガードレールなどから、津波がきた街と実感した。
- ・ ボランティアとして三県に行っているが、まだまだがれき処理が進んでいないことに胸が痛んだ。がれきは被災した方の生活の跡です。
- ・ 山中は変わらないと感じたが、海岸線に近づき海から遠い場所においても津波の被害があることを実感した。静岡県から出される第4次被害想定を基に、被災地住民だけでなく、来訪者にもわかる対策が必要だと思う。
- ・ 静岡市の東海地震対応を早めて欲しい。
- ・ 一年経っても被災現場の状況を目の前にしてあぜんとした。もう少し早く復興ができるとよい。
- ・ 新日本製鉄釜石製作所を過ぎた辺りから波にぶち抜かれた家の土台を目の当たりにして改めて津波の破壊力に驚いた。
- ・ 報道等で知っていたつもりが、目の当たりに見て津波の威力、破壊力に恐ろしくなる。
- ・ リアス式海岸特有の狭い湾に、予想を超えた津波が襲いかかった事が、現地で自分の目で見てよく分かった。
- ・ 現風景を毎日目の前にして生活することの辛酸さを追体験しました。
- ・ 災害廃棄物は被災現場よりかなり撤去されていると思う。
- ・ 早くがれきを片づける協力が必要。
- ・ 「百聞は一見に如かず」この状況を見ると助けてやりたいという気持ちになった。
- ・ 肉親を失った人の話を聞き、我々は何をすればよいか何ができるかを考えさせられた。
- ・ コンクリートの処理が大変だと思われるので、現地での処理が必要と感じた。
- ・ 釜石は財政の豊かさと被災の少なさで、思った以上に復興のスピードが速いと思った。
- ・ 所々新しい建物ができ、建築中も見受けられ、復興が少しずつ進みつつあると思えた。
- ・ 毎日の生活の中でほとんどは嫌な思い出につながるだろう現場で、笑顔がある被災地を知り、人間ってすばらしいと思った。
- ・ 釜石に入って初めて被災現場を見たショックは一生忘れないと思う。建物にバツ印が所々に書いてあり、ここに住んでいた人たちは無事だったのか。命さえあれば必ず復興できると思う。
- ・ 災害に共に助け合うことが必要と考えました。災害同苦、災害共助を発信したらどうでしょうか。不賛成の方には見学を進めることが一番と思う。
- ・ 家の基礎だけが残っている場所で新築の家と思われるきれいな外観の建物がぼつぼつと見られたのが印象的です。被災して家が壊れても地元で暮らしたい方々の気持ちの表れかもしれないと思う。

東日本大震災による災害廃棄物の現況視察に関する意見

Q2：山田町公民館における、被災地職員からの被災状況や復興計画等に関する説明を聞いて感じたこと

- ・ 説明前は、全ての被災家財類の受け入れを行うと思っていたが、分別により委託先や再生利用方法等が検討され、山田町も最大限の手を尽くしていると感じた。
- ・ 仮置場が観光資源であり街の大きな収入源になることも教えて頂いて良かった。
- ・ 分別された堆積物が有機物を含んでいる場合、復興資材として適さず、埋立利用するまで、ずっと増え続ける現状を知り、処分可能なものは早期に受け入れた方がいいと感じる大きな後押しとなった。
- ・ 災害廃棄物に関して、市町村によっては地元で処理を望んでいる所もあるようだが、山田町に関しては広域処理を望んでいるという事を、また、その理由も確認でき良かった。
- ・ 環境団体の方が、受け入れ自治体だけでなく、被災自治体にも抗議している現実を知り悲しみと共に怒りを覚えた。
- ・ 復興計画が進むためにも私たちが頑張らないといけない。がれきが一日でも早くなくなり、心の復興もできるように頑張りたい。
- ・ ガレキ処理完了までのスケジュールが短いと感じた。総量と処理量からすると大変厳しいと感じた。
- ・ 静岡市もがれき置き場を早く準備して欲しい。
- ・ 市民に早く視察状況を知ってもらうよう広報で特集を組んでほしい。
- ・ 町の職員の方々の業務の過酷さ、一生懸命さが伝わった。
- ・ 静岡市が協力していることを誇りに思った。静岡市は山田町、大槌町が自立の目途が立つまで支援を続けて欲しいと思う。
- ・ 山田町の木材、コンクリート、金属などの処理方法を見ると聞くのとはかなりの差があると思った。
- ・ 早期復旧・復興はどうしてもしなければならない。そのためには災害廃棄物の広域処理が岩手県としても山田町としても是非必要だという事が、町長、職員の話で自分なりに理解できた。日本中の他の自治体も、もっと積極的に協力すべきだと思う。
- ・ 災害廃棄物の処理については、町として最大限努力している様子であるが、国及び各都道府県が協力しなければ、復興は大変だろう。
- ・ 我々が受け入れようと計画しているガレキは分別された可燃物のみで、これ以外のガレキや金属その他を考えると、先の難しさが歴然としており、藁をもつかむ気持ちが伝わってきた。
- ・ 一部の人からは自助努力が必要との声もあるが、被災地はよくやっていることが理解できた。
- ・ 「ガレキが無くならないと復興が始まらない」との悲痛な叫びが聞こえた。ガレキ処理の手伝いは、安全性を維持したうえで日本人として当然。
- ・ 静岡市としても職員等派遣しているものの、もっと積極的な手伝いを行うよう努力して欲しい。
- ・ 復興計画があまり進んでいないように感じた。
- ・ 市当局は、情報公開を落ち度なくやって、試験焼却、本格焼却を進めてください。
- ・ 海の前船越公園が膨大なガレキの仮置場になっていて山田町の人たちは、それを毎日目にしながら復興に頑張っている。日本中の人々が山田町に来て、被災状況を聞いてほしいです。
- ・ 現地では本当に困っていることを感じた。もっと政府や国民も協力しなければならないと感じた。
- ・ 今回私たちが見聞きしたことを周囲の人々に正確に伝えることから始めて、廃棄物の受け入れについての意識を前向きなものにしていく必要があると感じました。

東日本大震災による災害廃棄物の現況視察に関する意見

Q3：山田町の災害廃棄物仮置場の現状をご覧いただいて感じたこと

- ・ 大きな山がたくさんあって見るに耐えられなかった。分別されずにただ積み立てられているものもあれば、土の山になっているものもあって、処理にはたくさんの工程が必要だということが分かった。
- ・ 廃棄物の中にあれだけ多くのものが混じっていると気が付かなかった。本格的に広域処理が始まったら処理業者をもう少し多くして早く処理を完了してもらいたいと思う。
- ・ これから先、元通りの姿に戻れるかと考えさせられた。国も地方も現地の気持ちをくんでやるのが大切だと感じた。
- ・ 作業されている方を見て、「復興、復興」と無責任に騒いでいる様な気持ちになりました。手作業もあり、なかなか思い通りにならない現状も分かった気がする。
- ・ 私たち一人一人が身近なものに捉え、真剣に考えるべきと思いました。あのガレキがなくなると確たる計画も出来ないのではないかと。
- ・ 空間線量の測定結果も $0.03\sim 0.04\ \mu\text{Sv/h}$ と低く安全ではないか。安全が確認されたら試験焼却、本焼却を進めてほしい。
- ・ 廃棄物が一か所にまとめられていたことはある意味良いことと思われた。町内のあちこちで見られれば、その都度被災を感じてしまうのではないかと。
- ・ 放射能はおおむね心配ないように思われるが、ホットスポットもあるかもしれないので、多くの測定をお願いしたい。
- ・ 廃棄物の量に一番驚きを感じ、選別しなければ次のステップに進めない、引き取ってもらえないことなど、色々な問題があると思った。
- ・ 分別処理（最終的には人の分別）の能力が小さく、機械に置き換え、効率的な方法の開発も必要。
- ・ 実際に放射能の線量を測定したが、 $0.05\ \mu\text{Sv/h}$ と静岡出発前よりも低く安心した。自分の目で見た今回の視察内容を、出来る限り正確に、写真も交えて多くの人に伝えたい。
- ・ 木材の測定を行いました。一回目 $0.07\ \mu\text{Sv/h}$ 、出発前に庁舎前で測定した時は $0.08\ \mu\text{Sv/h}$ でしたので、安心していいのか、不安な気持ち。
- ・ 放射能のことだけに感覚的な恐怖をあおられている風潮がありますが、ガレキを集積した現場で線量測定しても微量で、むしろ自然界のほうが高い値なことが多々あります。静岡市が早期に協力体制の準備に入った事は誇りです。
- ・ 分別プラントの能力、人の手による選別に感心しました。放射線のことについても一度勉強し直したいと思う。
- ・ あまり多い量とは感じなかったが、能力不足を感じた。市でガレキを受け入れても良い。
- ・ 季節が良かったからか臭いがないことは驚きでした。回収してきたガレキの分別が想像していた以上に進んでいること、細かい分別は手作業でしたが、機械化されていることは良いと感じましたが、半面雇用の創出においてはどうなのかと感じました。
- ・ ガレキの分別等を機械で行っていることは今回初めて知りました。山田町の放射線量が静岡市よりも低い現実も知り、このことをみんなに伝えていきたいと思う。
- ・ 居住可能な山田町のエリアと比較してみても、仮置場の占める割合はかなり大きいと感じた。街の再生のためには収入源である仮置場を早急に戻してほしいとの思いも。

東日本大震災による災害廃棄物の現況視察に関する意見

Q4：大槌町の被災状況を車窓からご覧いただき感じたこと

- ・ 津波の被害の大きさを感じ、静岡市にもし津波がきたらと置き換え考えた。
- ・ 水たまりにエアコンのリモコンが浮いていて、確かに人が暮らしていた痕跡が見受けられたので、心がぎゅっと締めつけられました。
- ・ 廃棄物処理の効率を考えているのだろうが、余りに大量すぎて全国に依頼しないと処理しきれない。
- ・ 国を挙げて支援しなくてはいけないと思う。
- ・ 分別が山田町よりしっかりしていたと思います。
- ・ 現地を見ないと分からないことがたくさんあります。できれば多くの市民の方が見てくれる必要があります。そうすれば、ただ何もしないで黙っていることができません。
- ・ 根こそぎとはこういうことかと痛感しました。看板だけがぽつんと残されているのを見るのはつらいです。その被災の場所に新しい家がぽつんぽつんと建っているのは、国が何もしてくれないからどうしようもなく建てるのでしょうか。
- ・ 報道等で見えていましたが、実際自分の目で改めて水の怖さに驚きました。特に頑丈なコンクリートの防波堤も破壊されている状態にはただただ茫然としました。
- ・ 車の窓を開けて集積所の臭いを調べてみたが、それほどとは思わなかった。この場において毎日居てみればどんなかは想像がつく。夏になればもっと大変だろうと思う。
- ・ 小さな自治体では支援が必要だと思う。バス停でバスを待っていた女子学生の父親が津波で死んだことを聞き、彼女の後姿が印象的だった。
- ・ 大槌町も同等の被害が出ているが、業者に委託する方法は一つの方法としていいなと感じた。
- ・ 山田町よりも少し処理が遅れているように見えた。集積場所が分散しているので、全体の進行が見えないように思えた。車からでは実態は分かりにくかったがいずれにしても大変なことだと思った。
- ・ 仮置き場の選別などが遅れていると思った。町役場の被災と合わせ、町長を始めとした職員が被災したことが大きな要因があったと思う。
- ・ 行政の出発の遅れが見えた。とくに食事休みの光景が頭に残る。
- ・ 亡くなった大勢の方の命がああ災害廃棄物と一緒にになっていた。
- ・ 水産業が主要産業の大槌町の港がガレキ集積場になっていました。ガレキ処理の重要性が一目瞭然でした。大槌町の復旧復興は日本の産業の復旧復興でもあります。このことが確認できました。
- ・ 一面住宅の基礎ばかりが残されている光景に悲しくなりました。所々に残されている鉄骨だけの建物や1~2階が空洞になっている建物に一層恐ろしさを感じました。
- ・ 山田の仮置き場と同様に機械、人力によって懸命な努力がされていました。大槌は漁業の街で漁師の高齢化と人口減少、街の復興が大変だと地元の友人から聞いています。
- ・ 自分が被災地に赴いて活動することは難しいかもしれませんが、静岡でできることを普段から行いたいと改めて思いました。
- ・ まだまだ復興が進んでいない現実を見て、お手伝いできることがあればこれからも積極的にお手伝いしたいという気持ちが強くなりました。
- ・ 山田町の倍の量という事もあり、すごい量だなと思いました。あれだけの量を目の当たりにしてしまうと、協力を申し出る、ガレキを受け入れると言うのは当然の行為のように感じました。

東日本大震災による災害廃棄物の現況視察に関する意見

Q5：今回の視察を終えて、全体を通じて感じたこと

- ・ 昔の津波の経験をもう少しでも参考にしていたら少しでも防げていたのでは。静岡県は沿岸地域が多いので心配。
- ・ 被災地の現状を見られるようなものがあればいいと思っていた。私の役割の一つとして、今回現地を見て感じた事を誤解のないように周囲に話していくことが大切だと考えている。
- ・ 想定外とはいえ、津波の、自然の力のものすごさをまざまざと見せつけられました。明日は我が身とは思いたくはありませんが、相互に支えあう精神が大事。
- ・ 東海地震に備え今まで以上に気を引き締めていきたいと思う。東北地方の一日も早い復興をお祈りしています。
- ・ ボランティア、義援金の寄付なども一つの援護の方法ですが、遠くに住む私たちは、あんなに多くのガレキを見た時、その処理、焼却に少しぐらいの反対意見があってもやらなければならないことを強く感じた。
- ・ 私にできることは何だろうと三日間考えることができました。静岡市もガレキを受け入れてください。私は周りの人、友人、知人に山田、大槌の現状をどンドン話をしていきます。他人事ではなくて、自分のこととして話すことで、復興が進むことを願っています。
- ・ 東海東南海地震をかかえている静岡県民として全く同じ事態にもなりかねない現状を自分のこととして受け取り、これから各自治体でも受け入れ態勢を取って欲しいと思いました。
- ・ 原発に対する恐怖は今もありますが、現地のガレキを見て、その処理、措置そして実際の線量の測定を行うことで、また、知識を得ることによって解決される問題と思いました。ガレキの処理の応援助成に賛成したいと思います。
- ・ 報道等で知ってはいたが、現場に行ってみるとびっくりしています。残っているのが家の基礎、土間等、大きな建物が残っていても1階2階が使い物にならない。ガレキは片付けられていたが、火事の焦げ跡があり、山と山の間に行くとかかなり奥の方まで被災していた。両町ともこの地にこのまま家が建つのか、仕事はどうかと考えさせられました。
- ・ 放射能の被害がほとんどないと分かったので、試験焼却を早くすまし、本格焼却に一日も早く近づけるよう協力します。風評に惑わされないよう実施して下さい。
- ・ 早急に手助けしてあげたいという思いは皆同じだと思います。しかし、処理の問題等さまざまな意見が出て難しい状況です。この状況を多くの人たちに知ってもらうために職場へも報告したいと思う。
- ・ 参加者全員真剣な目と顔だなと思った。何事に対しても自分たちでできることに協力が必要では。もっと自分のことと思い、静岡市も早く応援、協力出来るよう前向きに進んでください。我々も先頭に立って応援するつもりです。
- ・ 山田町で聞いた、心ないメールの話は新たな被災だ。帰ったら町民の方に現状と感じたことを飾りなく話そう。
- ・ 市としては一般市民に理解していただけるように説明して欲しいと思いますし、視察に参加した我々も地元で現状を報告していきたいと思います。
- ・ 心配していたガレキの問題もこれで解決すると思います。出来るだけ早く山田町のガレキが取り除いて地元の皆様が元の生活に戻れることを祈ります。

東日本大震災による災害廃棄物の現況視察に関する意見

- ・ 安全確認の上で、静岡でも一日でも早く処理が実施されたいと思う。
- ・ 被災した自治体だけでは負担が多くて無理だと思うので、国を挙げて支援することが最も大切なように思う。それには新規の道路建設などの予算を削ってでも予算の投入が必要ではないか。静岡市もできる限り焼却処理の受け入れを早急にすべきだと考える。
- ・ 現地派遣職員から現地のニーズを収集し細やかな支援ができれば更にいいと考える。自治体を利用することも可。安全性の確認作業がマンネリ化して疎かにならないよう注意して下さい。
- ・ これからことある毎に皆に話していく。行政としてももっと皆に伝えていく PR をして下さい。
- ・ バス停でバス待ちをしていた女の子に「津波は大変だったね」と声をかけたら「お父さんが亡くなった」との返事。ただただ元気を出しての一言しか言えなかった。早く何とかしたい。行政の強力なリーダーシップが今最も必要な時、我々一人一人に何ができるのか考えてみる機会を頂いた。
- ・ 国が信用できない現状では、市が町を助けるべくパートナーとして両町を本市も助けて欲しい。
- ・ 福島県の災害廃棄物を静岡市で処理するとしても賛成するが、岩手県の災害廃棄物については、放射性物質は何も問題ない。静岡市での受け入れは OK です。
- ・ 岩手のみならず、被災された方々の深い悲しみ、苦しみなど被災者の犠牲を思えば、やれることはやってやるではなくて、やらせていただく、利他的愛を示すべきです。静岡市も、いつ大災害が起きても不思議ではない時、場所に生活しています。日頃から困っている人々に手を差し伸べる、災害時助け合う共助の精神はむしろ当たり前のことです。
- ・ 有益な3日間でした。この成果を友人、知人に伝え静岡の発展に微力を尽くしてまいります。
- ・ 今回現地を訪れて、震災当時の人々と同じ目線から見ることができ、改めて津波の巨大さを感じました。また、同じ県内でも盛岡市街地のように通常の時間が流れているように見える街並みと一年を過ぎた今、多くの困難を抱えて苦しんでおられる山田町をはじめとする津波被害にあわれた地域との対照的な姿が印象的でした。
- ・ 大変有意義であった。多くの女性の参加、主婦の参加があればと思いました。
- ・ 放射能、有害物質を全国に分散することは絶対にあってはなりません。世の中には金儲けで何をするか分からない人たちもいることを頭に入れ、多くの人に関心を持ってもらおうと同時に、今後行政には頑張ってもらいたいと思います。
- ・ 静岡市民に早くガレキの現状を伝え、早くガレキを処分してもらいたい。
- ・ 市から国に法改正を働きかけて欲しい。市は自助努力での処理を考え、他県に頼むな。
- ・ 山田町の復興計画、ガレキ処理計画など被災地の経験を取り込んだ静岡市の災害対策を希望します。
- ・ 静岡市が試験焼却やガレキの受け入れをする際に環境団体などの抵抗もあるかと思います。でも多くの静岡市民は受け入れに賛成しているはずです。
- ・ ネットやニュースでは色々な情報が溢れ、どの情報が正しいのか、何を選択すべきか難しいところがあります。広域処理に関してはどちらかというと賛成だが、不安な部分もあった。ただ、今回現地の状況を自分の目で見て、現地の人のお話を聞いて感じたことが一番説得力のある情報だと思う。
- ・ 被災地に足を運んでいることもあり、受け入れは大賛成でしたが、風評被害という名のもと県産物に影響が出ていることも憂慮していた。反対派の全ての方々を納得させる技量は持ち合わせていないが、実際に放射線を測り、市内と比較できたことは大変大きな後押しとなった。できればこの視察が全国に広がっていくことを望みます。